



**Federation of International Touch Inc.**

**Playing Rules**

**4<sup>th</sup> Edition 2013**

タッチラグビー国際協会

ルールブック

2013年 第4版

(日本語版 第2版)



このルールブックはジャパンタッチ協会より発行した FIT ルールブックの参考訳であり、無断転載は禁じます。

第 2 版：平成 29 年 6 月 4 日



## 目次

- 1 タッチラグビーの用語
- 2 試合グラウンドとボール
- 3 選手要件とチームウェア
- 4 試合の進め方 (mode of play)、 試合時間と点数方式
- 5 チーム編成とサブ交替
  - 5.1 選手の人数
- 6 ゲームの開始方法と再開方法
- 7 ボールの所持
- 8 パス
- 9 ロールボール
- 10 タッチ
- 11 ライン上、もしくは近辺のプレイ
- 12 パスライン上のボールの接触
- 13 オフサイド
- 14 オブストラクション
- 15 ペナルティー
- 16 アドバンテージ
- 17 規律と不正行為
- 18 レフリーと試合責任者

## 1 タッチラグビーの用語

これらの用語で新たな意味合いが作られない限り、下記用語と意味はタッチラグビーの用語として使用することとする。

用語	意味
Advantage アドバンテージ	試合中に一方のチームが対戦チームより有利な状況を作ること。
Affiliate 関連協会・地域協会	加盟国主要協会と正式に提携している地域協会等を指す。
Attacking Scoreline 攻撃スコアライン	選手がライン上もしくはラインを越えてボールを置くことによって点数が入るラインのこと。
Attacking Team アタック・オフENS・攻撃	ボールを所持しているもしくはそのボールの所持権を与えられるチーム。
Behind 後方	自陣ラインへの方向、もしくはポジション。
Change of Possession 攻守交替	ボールの所持権交替、つまり攻守交替をする行為のこと。これを <b>changeover</b> ・チェンジオーバーともいう。
Dead Ball デッドボール	タッチ後にロールボールされるまでボールを使えない、タッチダウン後やペナルティーにより足でタップされるまでボールが使えない、もしくはボールがグラウンドの外へ出たりボールが落ちた時など、ゲーム中に使えないボールのことを示す。
Dead Ball Line デッドボールライン	グラウンドの一番奥のラインのことを示し、グラウンドの縦の境界線。グラウンドの両端に存在する。
Defending Scoreline ディフェンススコアライン	タッチダウンを防ぐために守らなければいけないラインのこと。
Defending Team ディフェンス・守り	ボールを所持していないチーム、もしくはボールの所持権を失ったチームのこと。
Deliver ボールの受け渡し	ボールを相手チームに渡すこと。
Dismissal 退場	一時退場（シンビン）もしくはゲームから退場を命じられた選手のこと。この選手の交替はできない。
Drop Off ドロップオフ	同点で通常の試合時間が終了した時に勝者を決める方法。延長戦のこと。
Duration 試合時間	試合時間。通常は 45 分、この場合ハーフタイムの 5 分も含まれる。

End of Play 試合終了	試合時間終了に伴い、デッドボールになった時にレフリーが示す試合終了の合図。
Federation Member 加盟国	FIT の加盟ルールに則って各国の FIT 加盟協会が運営する地域や国のことを指す。
Field of Play グラウンド	サイドラインとデッドボールラインで囲まれているゲームのできるグラウンドのことを指す。 (公式グラウンドの図を参照)
FIT	The Federation of International Touch Inc, タッチラグビーの国際協会。このルールブックを出版している協会でもある。
Forced Substitution 強制交替	選手のルール違反により、ペナルティーよりは重いが強制退場よりは軽い場合に行われる選手の強制交替のこと。
Forward フォワード	オフenseが攻撃するデッドボールラインへの方向もしくはポジション。
Full Time フルタイム	後半の試合時間が終了した時のこと。
Half ハーフ	ロールボールが行われた後にボールを拾う選手のこと。
Half Time ハーフタイム	前半が終了した後、選手に与えられる 5 分間の休憩時間のこと。
Infringement 違反行為	選手がルールとは相反したプレイ (違反) をすること。
Interchange サブ交替	プレイ中の選手とサブボックスにいる選手が交替すること。
Interchange Area サブボックス	フィールドの両サイドラインに設置されている縦 20m 以下、横 5m 以下で仕切られている長方形のエリアのこと。サブボックスはハーフウェイラインから縦両方向に 10m、サイドラインから 1m 以上離れている。サブ交替が行われるまで、プレイに参加していない選手はこの中に待機していなければならない。
Line Markings ライン	グラウンドを囲むラインのこと。スコアライン、5 m ライン、センターライン、10 m ラインとサブボックスが示される。10 m と 5 m は点線で示される。
Link リンク	ウィング選手の隣にポジションを置く選手のこと。各チームに 2 名いる。

Mark (for a Tap) マーク (タップの時)	ハーフウェイラインの真ん中から行う試合の開始、再開のマーク (ポイント)、もしくはペナルティーの時に与えられるタップができるマーク (ポイント) のこと。
Mark (for a Touch) マーク (タッチの時)	フィールド上にいるボールを持った選手がタッチされたマーク (ポイント)。
Member 会員	Federation Member (加盟国) を参照
Middle ミドル	リンクの内側にポジションを取る選手のこと。1 チームごとに 2 名いる。
Obstruction オブストラクション	故意にオフenseもしくはディフェンスの選手が相手に認められているアドバンテージの邪魔をし、不公平なアドバンテージを得ようとする行為。
Offside (Attacking Player) (オフenseの) オフサイド	ボールがある場所 (もしくはポイント) より前に立っているオフenseプレイヤーのこと。
Offside (Defending player) (ディフェンスの) オフサイド	ロールボールの位置から 5 m 以上下がっていない選手、もしくはペナルティー時などのタップの位置から 10 m 以上下がっていない選手のこと。
Onside オンサイド	ペナルティーを取られることなくゲームに参加できるポジションのこと。 ディフェンスしているスコアライン上もしくは後ろにいる選手のこと。
Pass パス	選手間のボール保持者を変える方法で、ボールを自身の横方向もしくは後ろに投げる、フリックパス、ボールをノックすることを意味する。
Penalty ペナルティー	レフリーによって個人もしくはチームがルールと反すると認められたプレイに対して与えられるタップのこと。
Possession ボール所持	ボールを持っている選手もしくはチームのこと。
Rebound リバウンド	ボールを持っていた選手以外の選手にボールが当たること
Referee レフリー	正式に協会より認定された試合中にルールに則って判断を下す責任者。1 人以上いる場合もある
Rollball ロールボール	タッチもしくは攻守交替となった時にプレイを続行する方法。オフenseの選手はマーク上にボールを置

	き、攻撃しているスコアラインの方向へ向き、サイドラインと平行に立ち、ボールを股の間に丁寧に置いて跨ぐかボールを後ろへ 1m 以内に転がす。
<b>Ruling</b> 審判	試合中の行為によって下されるレフリーの判断。結果としてプレイオン、ペナルティータップ、攻守交替もしくはタッチダウンになったりする。
<b>Score</b> スコア	結果としてタッチダウンとなる動きのこと。
<b>Scoreline</b> スコアライン	ゲームをするフィールドとスコアできる範囲を隔てる線のこと。
<b>Sidelines</b> サイドライン	フィールドを囲む線のこと。横幅の境界線。線はフィールドの両側、2つある。
<b>Substitute Player</b> サブ	サブ交替によってサブしてくる選手と交替する選手。各チームに最高 8 名おり、サブ交替の時かプレイ中以外はサブボックスの中にいなければならない。
<b>Substitution Box</b> サブボックス	<b>Interchange Area</b> (サブボックス参照)
<b>Tap and Tap Penalty</b> タップ・ペナルティータップ	試合開始方法、もしくはハーフタイム後やタッチダウンがされた後の試合再開方法。ペナルティーが与えられた時に試合を再開させる方法でもある。タップはマーク上もしくはその後ろにボールを置き、そと足でボールをタップ（蹴る）かタッチする。ボールは 1m 以上動いてはならず、ボールを落とさずに地面から拾わなければならない。選手はどの方向を向いてもよく、左右どちらの足を使ってもよい。マークから 10m 以上離れていなければボールをあえて地面から持ち上げ移動させなくてもよい。
<b>Team</b> チーム	試合において選手が所属する団体。
<b>Touch</b> タッチ	最小限の力でボールを持っている選手とディフェンスの選手の間で行われる接触行為。タッチはボール、髪の毛、衣服への接触でおき、オフenseとディフェンスの選手双方からできる。
<b>Touchdown</b> タッチダウン	タッチされる前に攻撃しているスコアライン上、もしくはその後ろへハーフ以外の選手がボールを置く行為。



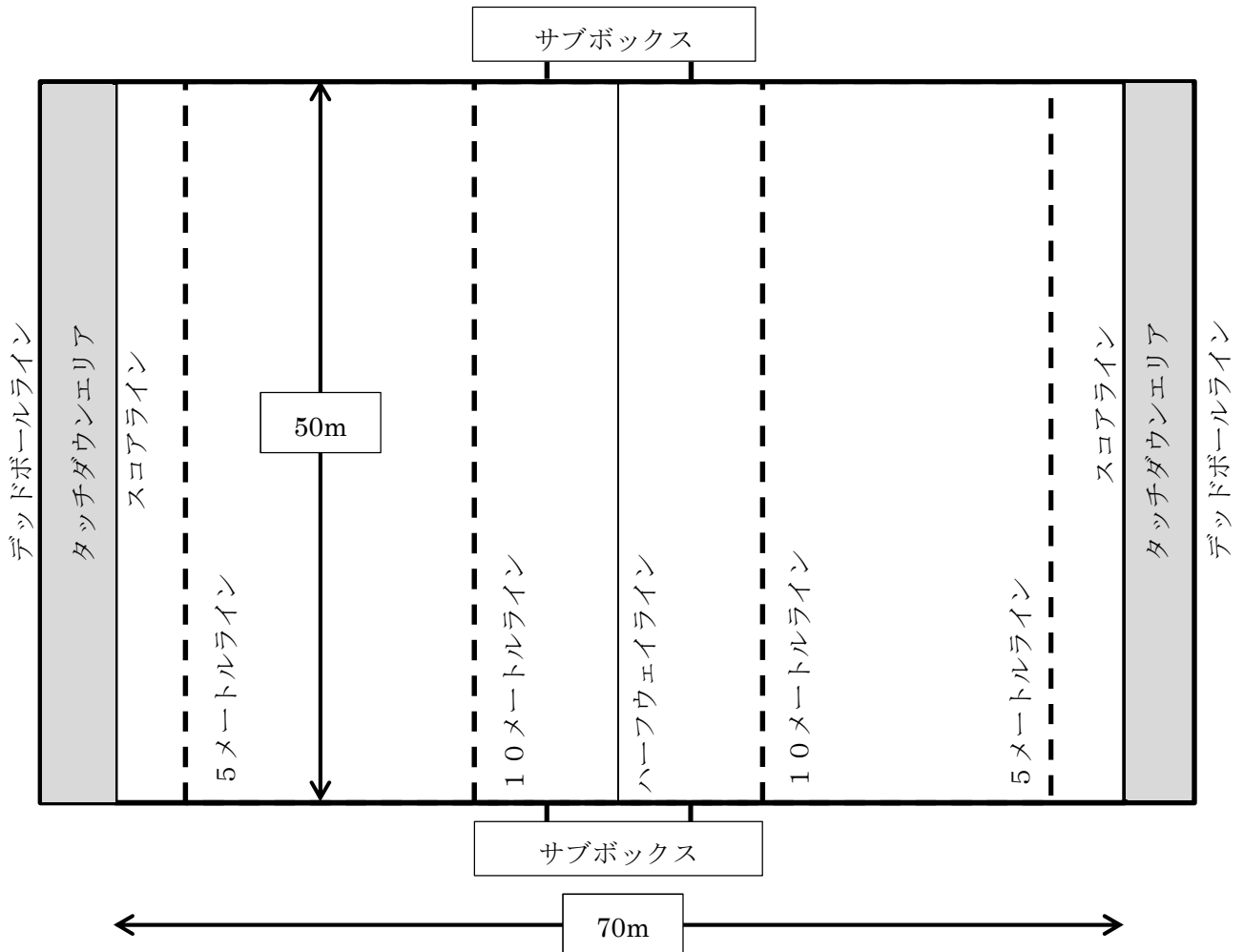
Touchdown Area タッチダウンエリア	フィールド上に存在するスコアライン、サイドラインとデッドボールラインに囲まれている範囲。フィールドの両端に存在する。
Touch Count タッチカウント	攻守交替までに認められているタッチ数で0から6までタッチされるごとに回数が増えていく
Wing ウィング	チームの中で一番外側にポジションを置く選手のこと。各チームに2名いる。
Winner 勝者	試合中に最も多く点数を入れたチームのこと。



## 2 試合グラウンドとボール

- 2.1 **グラウンド (field of play)** グラウンドは長方形の形であり、タッチダウンエリアを省いたスコアラインからスコアラインまでの縦70m、サブボックスを除くサイドラインからサイドラインまでの横50mからなる。グラウンドの大きさは大会によって変わるため、明確に大会規定に示すこと。
- 2.2 **ライン** ラインの太さは4cmを基準とするが2.5cm以下になってはならない。ラインは下記グラウンドの図のように引く。サイドラインはスコアラインから5m縦に延長し、デッドボールラインと結ぶことによりタッチダウンエリア(縦5m、横50m)を明確にする。サイドラインとデッドボールラインの外側はグラウンド外となる。
- 2.3 **サブボックス** サブボックスはサイドラインから1m以上離れていなければならない。
- 2.4 **コーナーの印** サイドラインとセンターラインが交わる点とサイドラインとスコアラインが交わる点には安全かつ丈夫な素材でできた目立つ色の印やコーンを置くこと。
- 2.5 **地面** 地面は通常芝であること。FITより認可を受けた地面の使用も可能である。ケガなどを招く地面の使用は認められない。
- 2.6 **ボール** ゲームではFITが公認した空気の入った楕円形、色とサイズのボールを用いる。ボールはFITが推奨する空気圧まで膨らませ、試合が開催される時点で公式ボールとして認定されたものを使用すること。他ルールがないかぎり、ボールは長さ36cm、円周55cmであること。ボールは選手の洋服の下に隠してはならない。

公式グラウンドの図



### 3 選手要件とチームウェア

- 3.1 選手要件 選手は FIT もしくは加盟協会での登録が必要になる。国際選手は FIT のオペレーショナルポリシー第 3 条の要件を満たさなければならない。未登録選手が出場しているチームはその試合が無効となる場合もある。
- 3.2 ユニフォーム 参加選手は正しく統一された協会もしくは協会加盟団体が認めたユニフォームの着用が義務付けられている。国際大会の場合は FIT が認めたものを着用する必要がある。ユニフォームはトップス、ズボン（女性選手の場合はショーツタイツ）とソックスで構成される。適切なワンピース型のユニフォームも認められる。帽子やサンバイザーなども安全でチームのユニフォーム要件と合えば使用可能である。
- 3.3 靴 安全な靴を履くこと。例えばビーチタッチなどゲームの種類によっては例外もある。スパイクが取り外し可能な靴の使用は認められない。軽量な革製もしくは合皮で柔らかい素材を使用したものが認められ、スパイクの長さは靴の底面から 13 mm 以下のもので柔らかい素材のものでなければならない。



- 3.4 背番号 背番号は高さ 16 cm以上の明確に読めるものをトップスの背中部分にプリントしたものを選手は着用すること。他に両袖に高さ 8 cm以上で選手番号を入れてもよい。トップスの他にショーツにも番号を入れてもよい。同じチーム内で同じ番号を選手同士使用してはならない。選手番号は明確に読め、2ケタまでとされ、連続した数字でなければならない。FIT 公式大会の場合、選手番号は 1 から 16 までとする。
- 3.5 アクセサリーと爪 選手はアクセサリやチェーン類のもの、ブレスレットなど、危険とみなされるものを着用したまま試合に出場してはならない。長い、もしくは鋭い爪も禁止されている。外せないアクセサリ等を着用する場合はテーピングなどで固定すること。
- 3.6 その他 安全で外れないようにされている、もしくは加盟協会ルールに則っていればメガネやサングラスは着用可能である。膝や足首のサポーターも危険なものでなければ着用は可能である。危険とみなされるものは着用してはならない。
- 3.7 加盟協会の責任 大会責任者は全参加選手の安全を確保する義務がある。加盟協会によって多少上記要項の違いがあってもよい。
- 4 試合の進め方 (Mode of play)、 試合時間、点数方式
- 4.1 目的 試合の目的はそれぞれのチームがより多くのタッチダウンを取り、相手チームのタッチダウンを防ぐこと。
- 4.2 試合の進め方 (mode of play) オフェンスをしているオンサイドの選手間でボールを投げる、手でバウンドさせる、手渡すなどの方法の他にボールを持って走り、より自分が攻撃しているスコアラインへ近づきスコアを狙うために動くことを主としている。ボールは蹴ってはならない。ディフェンスの選手は自分が守るスコアラインへオフェンスの選手が近づかないようにボール保持者をタッチすることで守る。ディフェンスとオフェンスの選手いずれもタッチをしてよい。タッチされた後はゲームが止まり、レフリーよりペナルティーなどのコールがない限り、ロールボールによって試合は再開される。
- 4.3 試合時間 試合は 45 分間であり、20 分ハーフで行われる。5 分間のハーフタイムが与えられる。試合時間は大会によって変更がある。
- 4.4 試合終了 試合終了の合図がされた時は次のデッドボールの時にレフリーの試合終了のホイッスルが吹かれるまで試合は続行される。もしペナルティーがこの時間帯に与えられた場合はペナルティーを取ること。
- 4.5 得点の獲得 タッチされる前に攻撃しているスコアライン上、もしくはその後ろのタッチダウンエリアの範囲内でハーフ以外の選手がボールを置くことでタッチダウンは与えられる。タッチダウンの点数は 1 点である。
- 4.6 スコアと同時のタッチ スコアライン上もしくは後ろへボールを置こうとしている時にタッチされた場合はタッチを数えられ、タッチダウンは認められない。



- 4.7 スコアラインに届かない場合 タッチダウンをめがけてスコアしようとするがスコアラインの手前でボールが届かず、そのボールから手を離してしまった場合、タッチとみなされ、その選手はロールボールで試合を再開しなければならない。ただし、ハーフ以外の選手がスコアラインの手前からボールをスライドさせてスコアライン上もしくはラインの後ろへボールを置いた場合はタッチダウンとみなす。また、このようなシチュエーションの時に選手がボールから手を離さなかった場合はタッチとは数えられず試合は続行する。
- 4.8 勝者 試合終了時に最も多くのタッチダウンを取ったチームが勝者となる。もし両チームとも無得点、もしくは同点の場合は引き分けとなる。
- 4.9 ドロップオフ 試合終了時に引き分けで勝者を決める必要がある場合は次に掲げるドロップオフの方法によって勝者を決める
- 4.9.1 60秒以内にチームから1名引き、5名でチームを編成し、ハーフウェイラインから試合再開する。この時の攻撃方向は試合終了時と同じ方向を向く。
- 4.9.2 一人選手が下りたあと、その試合開始時にトスに勝った方のチームがタップでハーフウェイラインから試合を再開する。
- 4.9.3 ドロップオフの時のサブ交替は通常通り、ルールに則った方法で認められている。
- 4.9.4 試合経過から2分後に合図が出され、もし勝者が決まっていない場合は次のデッドボールの時に試合はいったん停止され、もう一名、選手をそれぞれのチームから引かなければならない。
- 4.9.5 選手が下りたら即座に試合は一旦停止した場所から再開される。(つまり、ボールを所持していたチームがタッチカウント続行で試合を再開。もしくは何らかの理由、例えばペナルティーやシックスタッチの場合は攻守交替してから始まる)
- 4.9.6 時計の進行は止まらず、2分の合図があっても試合時間は進ませる。また、ドロップオフの時にハーフタイム等はない。
- 4.9.7 次の2分で最後にまたもう一人選手を下ろさせる。
- 4.9.8 最終的に選手が合計3名までになった時、それ以上の選手は引かれず、タッチダウンが起こるまで試合は続行する。もしシンビンや強制退場者が出た場合はその試合は放棄されたとみなし、ペナルティーを起こさなかったチームを勝者とする。
- 4.9.9 両チーム共にボールの保持権を持った後、最初にタッチダウンをしたチームがドロップオフの時は勝者とみなされる。ドロップオフを開始した直後の最初のシックスタッチ以内でタッチダウンが起こった場合はもう一方のチームにシックスタッチが与えられ、ハーフウェイラインから試合を再開する。もしこのチームもタッチダウンした場合は次にタッチダウンを勝ち取ったチームが勝者となる。



- 4.9.10 どの選手がドロップオフの時に下りるかはチーム内で決められる。
- 4.9.11 ミックスの試合のドロップオフの順番も自由だが必ず下記点を守るとする
  - 4.9.11.1 最低でも常に必ず男1名、女1名いなければならない。
  - 4.9.11.2 最高で3名の男性選手がフィールドにいることが許される。
- 4.9.12 放棄された試合 試合が放棄された場合はいかなる理由でも協会側が試合結果を決める。

#### 判断事項

- 4.A 他にルール違反がない限り、ルール 4.2 で違反が見られた時は違反していない方のチームが違反した地点からペナルティータップで試合を再開する。
- 4.B ルール 4.9.11 の違反があった場合は違反が見つかった時点でボールがある場所で違反していないチームがペナルティータップで試合を再開。

#### 5 チーム編成とサブ交替

- 5.1 選手の人数 一チームにつき選手は最高 14 名、フィールドにはどの時点でも 6 名までしか参加できない。ドロップオフ以外では試合の開始、再開するためには最低でも 4 名グラウンドにいなければならない。どちらかのチームの選手の人数が 4 名未満になった時点で試合は終了となり、選手の人数を満たしているチームが勝者となる。ケガやシンビンの時は適用しない。
- 5.2 ミックス（男女混合）の大会 ミックスの試合の時、男性選手は最高 3 名、最低 1 名がグラウンドにいなければならない。女性選手は最低 1 名が必要。
- 5.3 サブ交替 ルール 5.4 で記載されているサブ交替方法に従った方法でいつでもサブ交替が可能である。各選手のサブ交替回数は定められていない。
- 5.4 サブ交替方法 サブの選手は試合中サブボックスの中にいなければならない。サブ交替は必ずサブに出る選手がサイドラインを越え、サブボックスに入った時にしか次の交替選手は出られない。また、他大会規定にもよるが次を考慮すること：
  - 5.4.1 サブ交替はグラウンド横に設けられた規定の場所からしかできない。
  - 5.4.2 サブ交替によってグラウンドに出る選手は遅延行為をしてはならない。
  - 5.4.3 サブ交替する時に選手同士は接触しなくてよい。
  - 5.4.4 サブ交替する選手はプレイの邪魔をしてはならない。プレイに参加する場合はオンサイドのポジションにならなければプレイに参加できない。
  - 5.4.5 タッチダウンの後はサブへ出る選手がグラウンドから出る前に交替の選手がグラウンドへ出てもよい。
- 5.5 チームのコーチやスタッフ 試合中はコーチやスタッフはサブボックスの中にいなければならないがスタッフもしくはコーチの一名がグラウンドの端まで移動してもよい。ただし、このポジションに立った時はコーチやスタッフはデッドボールラインから 5m 以上離れていなければならない、コーチングしてはならない。



## 判断事項

5.A ルール 5.1 もしくは 5.2 の違反が確認された場合、違反の時にボールがあった場所からペナルティータップで違反していないチームが試合を再開する。

5.B ルール 5.4 の違反が確認された場合、違反したチームの選手がサブ交替でグラウンドから出た場所、もしくは交替選手がグラウンドへ出た場所のいずれかでよりアドバンテージが取れるポイントでサイドラインから 5m グラウンド内の所で違反していないチームがペナルティータップから再開する。

## 6 ゲームの開始方法と再開方法

6.1 トス レフリーが立ち会う中、チームのキャプテンがコイントスをし、勝ったキャプテンのチームが試合前半の開始権利、攻撃の方向と試合中（ドロップオフ等の延長時間も含む）のサブボックスを決めることができる。

6.2 タップオフ タップはルール 1. タッチラグビーの用語に記載されている方法で行わなければならない。アタックの権利を持ったチームがハーフウェイラインの真ん中からレフリーが試合開始の笛を吹いたと同時にタップで試合を開始する。タップが行われるまでアタックの選手は全員オンサイドのポジションにいないといけない。ディフェンスの選手はタップのマークから 10m 以上下がっていなければならない。ボールがタップされたらディフェンスの選手は前へ動いてもよい。

6.3 ハーフタイム後の試合再開方法 ハーフタイム後の試合開始はサイドを変え、トスに負けた方のチームがタップで試合を再開する。他詳細についてはルール 6.2 を参考にする。

6.4 タッチダウン後の試合再開方法 タッチダウンを許したチームがルール 6.2 に記載された方法でタップから試合を再開する。タッチダウン後は速やかに試合を再開しなければならない。

## 判断事項

6.A アタックのチームによるルール 6.2 の違反が確認された場合はハーフウェイラインの真ん中で攻守交替（ロールボール）となる。

6.B ディフェンスのチームによるルール 6.2 の違反が確認された場合はハーフウェイラインから 10m 先でアタックチームのペナルティータップとなる。

6.C スコアしていないチームがルール 6.4 を違反した場合はハーフウェイラインから違反していないチームのペナルティータップから開始。スコアしたチームがルール 6.4 を違反した場合は違反していないチームがハーフウェイラインから 10m 先でペナルティータップから開始となる。

## 7 ボールの所持



- 7.1 基本 他に規則等が当てはまらない限り、攻守交替までチームは6タッチ認められている。
- 7.2 攻守交替の方法 6タッチ後もしくは他の方法でボール保持権を無くした場合、ボールは早急に相手選手に渡すもしくは一番近くにいる相手選手にパスしなければならない。もしくは攻守交替をより早く行うためにマークに遅延なくボールを置くこともできる。ボールを求めてきたオフENSEの選手に対しては遅延なくボールを渡さなければならない。ボール保持権を失った選手は攻守交替のプロセスを故意に遅らせてはならない。
- 7.3 ボール・ツー・グラウンド ボールがプレイ中に地面に落ちてしまった場合は攻守交替となる。攻守交替のマークはボールが落ちた地点、もしくは選手がボールをパスしたあるいは落とした地点でよりボール保持権を獲得するチームによってアドバンテージがある場所となる。
- 7.4 ボールが地面につく もし選手がまだボールをコントロールしている時（ボールを落としたり手放したりせず、まだ持っている状態）に地面にボールが触った場合、攻守交替は起こらず試合は続行する。このルールはタッチダウンエリアでボールを置こうとするハーフには適用されず、攻守交替となってスコアラインの5m先からロールボールで試合は再開される。
- 7.5 ミスキャッチなど ボールが地面に落とされない限り、ボールをコントロールするために誤って前方向へボールが浮いてしまったとしてもプレイは続行とみなす。  
(ルール 9.4.3 参照)
- 7.6 インターセプト オンサイドのディフェンス選手によるインターセプトは認められている。インターセプトの後はタッチされるまで、タッチダウンが起こるまで、もしくはルール違反によって試合が止められるまでプレイは続行される。
- 7.7 同時キャッチ アタックとディフェンスの選手が同時にボールをキャッチした場合はタッチとみなされ、6タッチ目でない限りはアタックのロールボールとなる。  
英語ではデッド・ヒート・キャッチ (dead heat catch) とも呼ぶ。

#### 判断事項

7.A ルール 7.2 の違反が確認された場合はアタックのチームに本来攻守交替地点となるマークからさらに 10m 先でペナルティータップが与えられる。

#### 8 パス

- 8.1 基本 ボールを持っている選手はパス、フリックパス、ノック、投げるもしくは他の方法で他アタックチームのオンサイド選手にボールを渡すことができる。
- 8.2 フォワードパス ボールを持っている選手はパス、フリックパス、ノック、投げる、渡すもしくは他方法でボールを前方向に出してはならない。ボールを手の中で持たずに手前方向へジャグリングしながら同じチームの選手にボールを渡した場合は

フォワードパスと見なされる。

- 8.3 オンサイドディフェンス選手へのパス ボールをオンサイドのディフェンスの選手へフォワードパスした選手はペナルティーの対象となる。もしディフェンスの選手がボールをキャッチしようとしたりなどプレイを続行しよう試みるがボールが地面に落ちたり、一切そのボールを触ろうとしなかった場合はフォワードパスのルール違反が記載されているルール 8.2 が適用される。だがディフェンスがボールをキャッチした場合はルール 16 に則ってアドバンテージが与えられる。ルール 7.6 と 7.7 も参照すること。

#### 判断事項

8.A ボールを持っている選手によってルール 8.2 の違反が確認された場合はペナルティーが認められ、ボールが前に投げられた地点をマークとしてディフェンスの選手がペナルティータックを与えられる。

### 9 ロールボール

- 9.1 方法 ロールボールは正しくロールされなければならない。アタックの選手はマークにポジションを取り、ディフェンスが守るスコアラインを向き、サイドラインと平行に立ち、ボールを足の間にコントロールした状態（しっかり持った状態）で置き、ボールを跨ぐもしくはボールを後ろへ転がす。転がす場合は転がる距離は1メートル以内でなければならない。ボールを持ってからロールボールをする、という規定はない。
- 9.2 マーク ロールボールのマークはタッチが行われた場所（ルール 10.2 参照）、ボールが落ちた場所、サイドラインから 5m フィールドに入った場所、もしくはレフリーが示した場所である。
- 9.3 行うタイミング ゲームを遅らせることなくロールボールを行うこと。
- 9.4 ロールボールする行うシナリオ ロールボールは下記状況時に行うとする：
- 9.4.1 タッチされた時
  - 9.4.2 シックスタッチによって攻守交替となった時
  - 9.4.3 ボールを地面に落としたり、ボールを前や後ろにノックしたりして攻守交替となった時（ルール 7.5 を参照）
  - 9.4.4 アタックの選手がペナルティー、タック、ロールボールで違反し攻守交替になった時
  - 9.4.5 ハーフがタッチされたりハーフがスコアライン上もしくは越えた場所でボールを置いたりして攻守交替になった時
  - 9.4.6 ボールを持っている選手がタッチされる前にサイドライン、デッドボールラインあるいはフィールドの外を踏んでしまい攻守交替になった時
  - 9.4.7 レフリーに指示された時





- 9.5 ボランタリーロールボール ボールを持っている選手はタッチされるもしくはレフリーに指示されない限りロールボールをしてはならない。
- 9.6 ロールボールの時のアタック選手 他のどのアタックの選手もロールボールからのボールを受け取ってよい。その選手が「ハーフ」となり、ボールを自身の方向へ転がすか足でボールを持つ前にコントロールしてよい。ただし、ボールは落としてはならず、前方向へボールをノックしたり 1m 以上ボールを転がしたりしてはならない。ハーフの選手は遅滞なくボールを受け取らなければならない。
- 9.7 ハーフ ハーフはボールをパスするだけでなく、ボールを持って走ってよい。正し、ハーフがタッチされた場合は攻守交替となる。ボールをパスするとその選手はハーフではなくなる。
- 9.8 ロールボールの時のディフェンス選手 ディフェンスの選手はボールを持っている選手の邪魔やロールボールの邪魔をしてはならない。ディフェンスの選手は守っているスコアラインに向かってロールボールのマークから最低 5m バックしなければならない。ディフェンスの選手はハーフの選手がボールに触る、もしくはレフリーに指示されるまで前へ出てはならない。(ルール 13.2.1 を参照)
- 9.9 ハーフがいない場合 ロールボールが行われた後にボールを取る選手(ハーフ)がいなければディフェンスの選手はボールを持っている選手からボールが手放された時に前へ出てよい。ボールがマークにあり、オフenseの選手がボールを跨ぎ、足か体がボールの上を通ったらディフェンスは 5m バックのポジションから前へ進んでよい。
- 9.10 ボール保持権の獲得 ロールボールを行った選手の後ろにハーフがおらず、ディフェンスの選手が前へ出てボールに触ると攻守交替となり、同じマークからロールボールで再開する。

#### 判断事項

- 9.A ルール 9.1 を違反すると攻守交替となり、マークからロールボールで再開する。
- 9.B ルール 9.2 か 9.3 を違反するとペナルティーとなり、ロールボールのマークからペナルティータップで再開する。
- 9.C ルール 9.5 を違反するとペナルティーとなり、ロールボールのマークからペナルティータップで再開する。
- 9.D ルール 9.8 を違反するとペナルティーとなり、オフenseのチームがロールボールのマークから 5m 先でペナルティータップから再開する。
- 9.E ロールボールすべきだった選手がタップした場合は攻守交替となり、もう片方のチームがロールボールでマークから再開する。
- 9.F ルール 9.6 を違反し、ハーフがロールボールのボールを受け取るタイミングを故意に遅らせた時はロールボールのマークだった場所からペナルティータップで再開する。

## 10 タッチ

- 10.1 基本 正しいタッチとはディフェンスとボールを持っている選手同士で最低限の力で接触することである。タッチはボール、髪の毛、衣服に触ることによって認められ、ディフェンスとボールを持っている選手のどちらからも触ってよい。
- 10.2 タッチのマーク タッチのマークとはボールを持っていた選手がフィールド内でタッチされた地点のことである。
- 10.3 最低限の力 オフェンスとディフェンスの選手はタッチを行う際は最低限の力で行うこと。タッチの方法はお互いに危険をもたらさない方法でなければならない。
- 10.4 デッドボール タッチされた後はロールボールが行われるまでボールはデッドボールとされ、プレイは止まる。タッチの後でロールボールが行われる前にボールが地面へ落ちてしまった場合は攻守交替とはならない。
- 10.5 誤ってボールにタッチして落ちた場合 タッチの時に誤ってボールを持っている選手の手を叩いてボールが落ちた場合はタッチとしてカウントされる。ボールの保持権を持ち続ける選手はボールをもう一度安定させてロールボールをしてよい。シックスタッチで攻守交替とならない限りタッチカウントはそのまま続行され、試合は再開される。
- 10.6 故意にボールにタッチして落ちた場合 ボールを持っている選手の手を故意にディフェンスの選手は叩いてボールを落とさせてはならない。
- 10.7 タッチの後に走り続ける ボールを持っている選手はタッチされた後は走るのを止め、タッチされたマークを通り越した場合はマークへ戻り、遅滞なくロールボールを行う。選手はタッチをされたにも関わらず、そのまま走り続けたりプレイを続行したりしてはならない。
- 10.8 タッチアンドパス タッチされた後にボールを味方へパス・手渡ししてはならない。
- 10.9 クレームドタッチ ルール 10.1 に則ってタッチが行われないう限り、タッチをコールしてはならない。また、接触が起こる前にタッチをコールしてはならない。
- 10.10 同時タッチ ボールが落とされていない前提のもと、もしレフリーがタッチされる前のパスかタッチされた後のパス（タッチアンドパス）を判断できない場合は同時タッチとみなし、ロールボールが行われる。シックスタッチだった場合は攻守交替となる。
- 10.11 スコア途中のタッチ スコアライン上もしくはラインを越えてボールを地面に置いたと同時にタッチされた場合は同時タッチとされ、タッチカウントは続行しタッチダウンは認められない。
- 10.12 スコアラインを越えてからのタッチ スコアライン上もしくはラインを越えてボールを地面に置く前にタッチされた場合はボールを持っている選手がディフェンスのスコアラインを越えて 5m ラインまで後退し、シックスタッチでない限りロールボールで再開する。タッチされた選手がハーフだった場合はルール 9.7 が適用され、攻守交替となり、同じ地点からロールボールで再開する。



- 10.13 ディフェンスしているスコアラインより後ろでのタッチ ボールを持っている選手がスコアラインより後ろでタッチされた場合はタッチがカウントされ、タッチされた場所より 5m インフィールド (5m ライン上) からロールボールで再開する。
- 10.14 オフサイドのディフェンス選手へのタッチ ボールを持っているオフenseの選手が一生懸命バックしてプレイの妨げにならないようにしているオフサイドのディフェンスの選手に自らタッチした場合はタッチがカウントされる。ハーフだった場合はルール 9.7 に則って攻守交替となる。
- 10.15 ボールをジャグリングしている選手に対してのタッチ もしジャグリングしている選手 (ボールをきちんと持てていない選手、持とうとしてボールをコントロールしようとしている真っ最中の選手) にタッチした場合はタッチがカウントされる。

#### 判断事項

- 10.A ルール 10.3, 10.6, 10.7, 10.8 もしくは 10.9 の違反はペナルティーが認められ、違反していないチームが違反を確認されたマークよりペナルティータップで再開する。
- 10.B もしレフリーがタッチを確認できなかった場合 (例: 見えない位置にいた) タッチコールを重視すること。

#### 11 ライン上、もしくは近辺でのプレイ

- 11.1 サイドラインもしくはデッドボールライン上、越えた場合 グランドを仕切る線上はプレイが外に出たと見なされる。ボールを持っている選手がサイドラインやデッドボールラインを踏む、もしくは越えた場合はプレイが止まる。
- 11.2 サイドラインを越える前のタッチ ボールを持っている選手がサイドラインを越える前にタッチされた場合はタッチがカウントされ、タッチされた場所をマークとしてロールボールで試合が再開される。
- 11.3 ディフェンスをしているスコアライン近くでのロールボール スコアラインから 5 m以内のところで攻守交替となった時、オフenseとなるチームはその場でロールボールしなくてもよい。タッチ後、5 mラインまでボールを持って行ってもよい。
- 11.4 オフenseしているスコアライン近くでのロールボール アタックしている選手がスコアライン近くでタッチされた場合、オフenseの選手はマークから真後ろの 5 mラインまでボールを下げてよい。
- 11.5 スコアライン近くのプレイ
- 11.5.1 5 mラインからスコアラインの間でボールを持っているオフenseの選手がいる場合はディフェンスの選手はスコアライン上に残ってもよい。
- 11.5.2 ボールを持っているオフenseの選手が 5 mラインの外にいる場合、全ディフェンス選手はタッチするために前に進まなければならない、タッチが行われるもしくは起こる直前まで全身しなければならない。
- 11.6 タッチから身を引く ルール 11.5.2 が適用されている時はディフェンスの選手は

タッチから故意に身を引いてはならない。

- 11.7 連続ルール違反 ルール 11.5 が適用している時にディフェンスの選手が前に進まないとして連続でルール違反した場合（例：同じオフェンス回で2回以上ルール違反した場合）、ディフェンスのチームは選手を一人外さなければならない。その選手はサブボックスまで戻らなければならない、ディフェンスの回が終了するまで6人目を試合に入ってはいけない。

#### 判断事項

11.A 他のルール違反がないという前提で、ルール 11.1 で違反が見られた場合、ディフェンスのチームはサイドライン上でのタッチもしくはラインを越えた地点から5mグラウンドの内側でロールボールから再開する。デッドボールライン上でタッチもしくはラインを越えた場合は5mラインからロールボールで再開する。

11.B ルール 11.5 でルール違反が見られた場合は、マークから違反していないチームがタップボールで試合再開。（ルール 15.3 参照）

11.C ルール 11.6 でルール違反が見られた場合は、違反が起こった場所をマークとして違反していないチームがタップボールで試合再開。

11.D ルール 11.7 でルール違反が見られた場合は、違反が起こった場所から一番近い選手が外され、マークから違反していないチームがタップボールで試合再開。

#### 12 パスライン上のボールの接触

12.1 ディフェンスによる故意の接触 ディフェンスの選手がボールの保持権を奪おうとボールに接触し、ボールがグラウンドに落ちた場合、オフェンスの選手がボールの保持権を持ち続け、タッチカウントはゼロに戻る。これはディフェンスの選手が故意にボールをグラウンドへ叩いた時も適用される。ボールが落ちた場所、もしくはディフェンスがタッチした場所でアドバンテージが最もオフェンスに与えられるいずれかの場所をロールボールするマークとする。

12.2 故意にボールに接触するが地面には落ちない ディフェンスの選手がボールに接触し、ボールがオフェンスの選手にそのままキャッチされたらタッチカウントはゼロに戻る（シックスアゲイン）。

12.3 故意にボールが触れられオフェンスの選手が触った場合 ディフェンスの選手がボールを故意に触った後にオフェンスの選手がボールを拾おうとボールに触り、地面に落ちた場合、ボールの保持権はオフェンスが持ち続け、ルール 12.1 に従ってタッチカウントはゼロに戻る。ただし、このルール適用にはボールが地面に落ちた原因が故意にボールを触ったためだからとレフリーの判断も必要となる。

12.4 誤って接触しボールが地面に落ちた場合 ボールに触れようとしていないディフェンスの選手にボールが当たり地面に落ちた時、攻守交替となり、ボールに触れた場所もしくは落ちた場所、いずれかで最もオフェンスとなるチームにアドバンテージ



ジが与えられる場所からロールボールで再開する。

- 12.5 誤って接触するがボールが地面に落ちない場合 ディフェンスの選手に誤ってボールが当たり、オフENSEの選手がまたキャッチした場合、試合はそのまま続けられタッチカウントもそのまま続ける。
- 12.6 ディフェンスの選手がボールに触れた後にスコアした場合 オフENSEの選手（元ハーフだった選手も含む）が空中でディフェンスに触れられたボールをキャッチし、そのままタッチダウンエリアでボールを置いた場合はタッチダウンが与えられる。

#### 判断事項

12.A 他にルール違反が見られないことを前提に上記 12.1 から 12.6 が適用される。

### 13 オフサイド

- 13.1 オフENSE選手によるオフサイド オフENSE側の選手がオフサイドの場合、その選手はプレイに参加できなくなり、ボールを持っている選手の前に立っている場合はペナルティーの対象ともなりえる。オフサイドのオフENSE選手はオンサイドのポジションに早急に戻る必要があり、オンサイドになるまでプレイに参加してはならない。1. タッチラグビーの用語を参照すること。
- 13.2 ディフェンス選手によるオフサイド オフサイドのディフェンス選手はオンサイドのポジションに早急に戻る必要がある：
  - 13.2.1 ロールボールの時にレフリーが指示した最低 5mを下がらない選手もしくは自身のスコアラインに到達しない（ルール 9.8 を参照）
  - 13.2.2 タップの時にレフリーが指示した最低 10mを下がらない選手もしくは自身のスコアラインに到達しない
- 13.3 スコアライン付近のディフェンス 5 m以内のところでロールボールが起こった場合、もしくはディフェンスしているスコアラインから 10 mのところでペナルティータップが起こった時にオンサイドになるためにディフェンスの選手は：
  - 13.3.1 ディフェンス選手の両足がスコアライン上もしくは後ろになければならない
  - 13.3.2 その他の体部分がディフェンスしているスコアラインの前の地面に触れてはならない
- 13.4 ディフェンスの下がる方向 タッチをした後にオンサイドのポジションへ下がる時、ディフェンスの選手はルール 13.2 と 13.3 で掲げられているオンサイドポジションになるまで一定の方向へ下がらなければならない。

#### 判断事項

13.A ルール 13.1 の違反がみられた場合は違反した場所をマークとして攻守交替となり、違反していないチームがロールボールで再開する。



13.B ルール 13.2 の違反が確認された場合はロールボールの位置から 5 m 前、もしくはペナルティータップの位置から 10 m 前でオフENSEスのチームにペナルティータップが与えられる。場所は 13.2.1 もしくは 13.2.2 のどちらを違反したかによる。違反が 5 m 内で起こった場合は 5 m ラインからペナルティータップが与えられる。

13.C ルール 13.3 の違反が確認された場合はオフENSEスが起きた地点からの延長線で 5 m ライン上からペナルティータップが与えられる。

13.D ルール 13.4 の違反が確認された場合はオフENSEスのチームにペナルティータップが与えられる。ペナルティータップの位置はロールボールの位置から 5 m 前、もしくはペナルティータップの位置から 10 m 前となる。場所は 13.2.1 もしくは 13.2.2 のどちらを違反したかによる。違反がスコアラインから 5 m のロールボールもしくは 5 m ライン上のペナルティータップで確認された場合は 5 m ライン上がペナルティータップのマークとなる。

#### 14 オブストラクション

14.1 ボールを持っている選手 ボールを持っている選手はタッチから逃げる目的、もしくは公平でないアドバンテージを得るために他のオフENSEスの選手の後ろやレフリーの後ろを走ってはならない。

14.2 サポート選手 ボールを持っている選手のサポート選手は必要に応じてサポートできるポジションに移動してもよいが、タッチをしようとしているディフェンスの選手をホールドしたり押したりして故意にタッチを妨げてはならない。オフENSEスのサポート選手はボールを持っている選手の後ろに回ってもよい。

14.3 やむを得ない妨害 サポート選手、ボールを持っている選手が不意もしくは誤って妨害行為をし、タッチを妨げるような行為を途中でやめ、あえてタッチされた場合はタッチとして数えられ、ペナルティーとはならない。

14.4 ディフェンスのチーム ディフェンスのチームは接触の無い対面ディフェンスが認められるがボールを持っている選手のサポートをしている選手に対して妨害行為をしてはならない。

14.5 ロールボールの妨害 ディフェンスの選手はロールボール時のハーフを妨害してはならない (ルール 9.8 と 13.2.1 参照)。

14.6 レフリーの妨害行為 レフリーがオフENSEスもしくはディフェンス選手のプレイを妨害した場合はプレイを一時停止され、妨害した地点をマークにロールボールで再開する。タッチカウントは変わらない。

#### 判断事項

14.A ルール 14.1、14.2、14.4 の違反が確認された場合は違反地点をマークにペナルティータップが違反していないチームに与えられる。

14.B ルール 14.5 の違反が確認された場合はロールボールのマークから 5 m 先で違反していないチームにペナルティータップが与えられる。



## 15 ペナルティー

- 15.1 基本 ルールの違反によってペナルティーが与えられた場合は違反していないチームのペナルティータップによって試合が再開される。ペナルティータップの方法は試合開始、ハーフタイム後の試合再開、タッチダウン後の試合再開方法と同じである。ペナルティータップが行われる時は全選手がオンサイドポジションにならなければならない（ルール 13.2.2 と 13.3 を参照）。
- 15.2 方法 ボールをマーク上もしくはマークの後ろに置き、両手を離し、足でボールを優しく蹴るもしくは触ることでタッチは行われる。ボールは1 m以上転がってはならず、落とさずにボールを持ち上げなければならない。選手はどの方向を向いてもよい。マークから10 m以上ボールが離れていない限り、タップの前にボールを持たなくてもよい。
- 15.3 マーク ペナルティータップのマークは他ルールが適用されない限り違反が確認された場所であり、レフリーが示した地点である。スコアラインから5 m以内で起きた違反の場合は、違反が起きた地点から延長線上に点線の5 mライン上をマークとする。グラウンド外、もしくはタッチダウンエリアで起きた違反の場合は起きた地点から延長線上にサイドラインから5 m内側、5 mライン上、もしくはレフリーが示したマークのいずれかがマークとなる。ディフェンスの選手は10 m下がるかスコアライン上もしくは後ろへ下がるかのいずれかで一番近いポジションを取らなければならない（ルール 13.2.2 と 13.3 を参照）。
- 15.4 タイミング 遅延行為なくレフリーがマークを示した後にペナルティータップをしなければならない。ペナルティータップが行われる前にマークが示されなければならない。しかし、マークをレフリーが示す前に正しいマーク上に選手がおり、選手の合図にレフリーが応じ、全オフェンスの選手がオンサイドポジションを取っている場合はアドバンテージを得るために即座にペナルティータップを行ってもよい。オフサイドのディフェンスによって与えられるペナルティーからの即座のペナルティータップでのアドバンテージも認められている。
- 15.5 ペナルティータップではなくロールボールした場合 選手はペナルティータップではなくロールボールをしてもよい。ロール後にボールを持った選手はハーフとはならない。
- 15.6 ペナルティータッチダウン レフリーによって選手、関係者、もしくは観客の妨害行為がルールもしくはタッチラグビーで求められているスポーツマンシップから著しく逸脱した行動によってオフェンスのスコアチャンスを妨害したと認められた場合はペナルティータッチダウンが認められる。

### 判断事項

- 15.A ディフェンスの選手によってルール 15.1 の違反が確認された場合は最初に示されたマ



ークから10m先でオフenseのチームにペナルティータツプが与えられる。(ルール 13.B 参照)

15.B オフenseの選手によってルール 15.1、15.2、15.3 の違反が確認された場合は攻守交替となりマークからロールボールで試合再開。

15.C ルール 15.3 のオフサイドペナルティーでのマークはロールボール時での違反の場合は違反地点から5m先の延長線上、ペナルティータツプ時での違反の場合は違反地点から10m先の延長線上となる。これはディフェンスの選手がオンサイドと認められる「いるべきであった地点」である。

15.D ディフェンスの選手によって攻守交替の時に遅延行為が確認された場合は攻守交替のマークから10m先でペナルティータツプが与えられる。

15.E ロールボール時にディフェンスの選手の妨害行為が確認された場合は違反していないチームに対してロールボールのマークから5m先でペナルティータツプが与えられる。ルール 14.5 を参照。

15.F ルール 15.4 によってペナルティータツプを行う選手から遅延行為を確認された場合は攻守交替となり、違反していないチームがタツプのマークでロールボールで試合を再開する。

## 16 アドバンテージ

16.1 基本 ルール違反をしていないチームに対して、アドバンテージを有効に活用できると判断を下した場合は試合のどの時点でもアドバンテージを明確に示すべきである。アドバンテージは明確に示し、他のルール以上の重要度を持つ。

16.2 活用方法 他ルールを基に、アドバンテージを言い渡されたチームはその機会をうまく活用すべきである。アドバンテージがうまく活用できなかった場合はペナルティーもしくはその他の判断を取られ、一旦ゲームは停止される。アドバンテージがうまく活用されたと判断されればプレイは続行される。

16.3 アドバンテージの種類 通常アドバンテージはゲイン中やボールを所持している時に判断されるが、サインプレイやタッチダウンの時にも判断される。

16.4 アドバンテージ中のルール違反 アドバンテージを言い渡されたチームがルール違反を犯した場合は最初のルール違反でペナルティーを取ること。

16.5 ディフェンスの選手がタツプやロールボールでオフサイドにもかかわらずプレイを妨げようとした場合はオフenseのチームに最大限のアドバンテージが与えられるよう、アドバンテージもしくはペナルティーを与えること。オフサイドでのアドバンテージは事前にレフリーがオフサイド選手に対して警告を発しなければならない。

## 17 規律と不正行為

17.1 不正行為 タッチのルールに従わない選手や関係者はペナルティーの対象もしくは行為の度合いによっては他処罰も検討される。ルールに従ってペナルティーは言



い渡され、場合によっては強制交替や一時退場にも至る。不正行為は下記例がある：

- 17.1.1 継続的なルール違反
- 17.1.2 言葉の暴力
- 17.1.3 レフリーの判断に対しての文句
- 17.1.4 必要以上の力を使ったタッチ
- 17.1.5 スポーツマンとしての態度の欠如
- 17.1.6 他選手、レフリー、スタッフに対して故意に転ばせたり暴力をふるったりなど
- 17.1.7 タッチラグビーのゲームの精神に反したその他行動や言動
- 17.2 チームのキャプテン 各チームのキャプテンがチームの選手たちの行動・言動の責任を持たなければならない。キャプテンはレフリーと会話を図り、必要に応じて一時退場等に陥った場合の理由を知る必要がある。
- 17.3 強制交替 ペナルティーよりは重い強制退場にはならない行為を犯した選手に対しては場合によっては強制交替を言い渡されることがある。強制交替の時はゲームがそのまま続行され、通常のサブ交替のルールが適用される。(ルール 5.4 参照)
- 17.4 退場 不正行為によっては選手やスタッフが退場させられる場合もある。不正行為に対しての流れは下記の通りである。
  - 17.4.1 一時退場 不正行為の度合いもしくは継続的にペナルティーを犯したことにより一時退場を言い渡された選手は自分のチームが攻めるスコアラインの真ん中の延長線上でデッドボールラインから 5 m 以上離れた場所で待機すること。不正行為の度合いを考慮した上で、一時退場の時間はレフリーの判断による。退場させられた選手のサブは入れてはならない。一時退場の時間がハーフタイムと重なった場合はハーフタイムの時だけサブボックスに戻ってもよい。一時退場から解放された選手はサブボックスに戻るかオンサイドポジションになってサイドラインからグラウンドに入ってもよい。試合は一時退場を言い渡された選手が戻ってから再開される。
  - 17.4.2 試合からの強制退場 一時退場を言い渡された選手が再び一時退場を言い渡される、もしくは過度な不正行為や危険行為を犯した選手は試合を強制退場させられ、サブボックスやサイドラインから 10 m 以上離れた場所で待機すること。退場させられた選手の代わりは入ってはならず、自動的にその選手は 2 試合出場停止となる。また、その選手は FIT 司法委員会や他関連協会の司法委員会の判断により、必要に応じてその他の罰則を受ける可能性もある。レフリーは退場理由が記されたレポート等、FIT や関連協会の基準に基づいて提出する必要がある。
  - 17.4.3 ミックスチームの退場方法 ルール上に記された男性選手の最高人数と女性選手の最低人数を割らない上でコーチは自身のチームの男女構成比を決めてよい。(ルール 5.2 参照)

## 18 レフリーと試合責任者

- 18.1 任命方法 FIT認定国際試合のレフリーやレフリースタッフの任命はFITレフリー委員会の推薦により、FIT役員会が行うものとする。
- 18.2 レフリー レフリーは試合中の唯一の判断者であり、ルールに従ってゲームを裁くこと。レフリーはゲームをコントロールするために必要に応じてタッチダウンを認め、スコアを記録、ボールを保持しているチームのタッチカウントを数え、ルール違反の時はペナルティーを下さなければならない。
- 18.3 注意勧告の順番 レフリーは注意勧告の順番を踏まえ、警告から強制退場までの順番を考慮すること。レフリーは違反行為の度合いにあった警告方法を行わせること。
- 18.4 レフリーの責任範囲 選手、コーチ、両チームのスタッフがレフリーの責任範囲となる。
- 18.5 コントロールの範囲 レフリーがコントロールすべき範囲には試合が行われるグラウンドの他にその試合に関係してくるサブの選手がいるエリアとチームのスタッフがいる全範囲とされる。
- 18.6 チームのキャプテンはレフリーの判断に対して質問をしてもよい。ただし、礼儀正しく、試合を必要以上に止めないようにしなければならない。